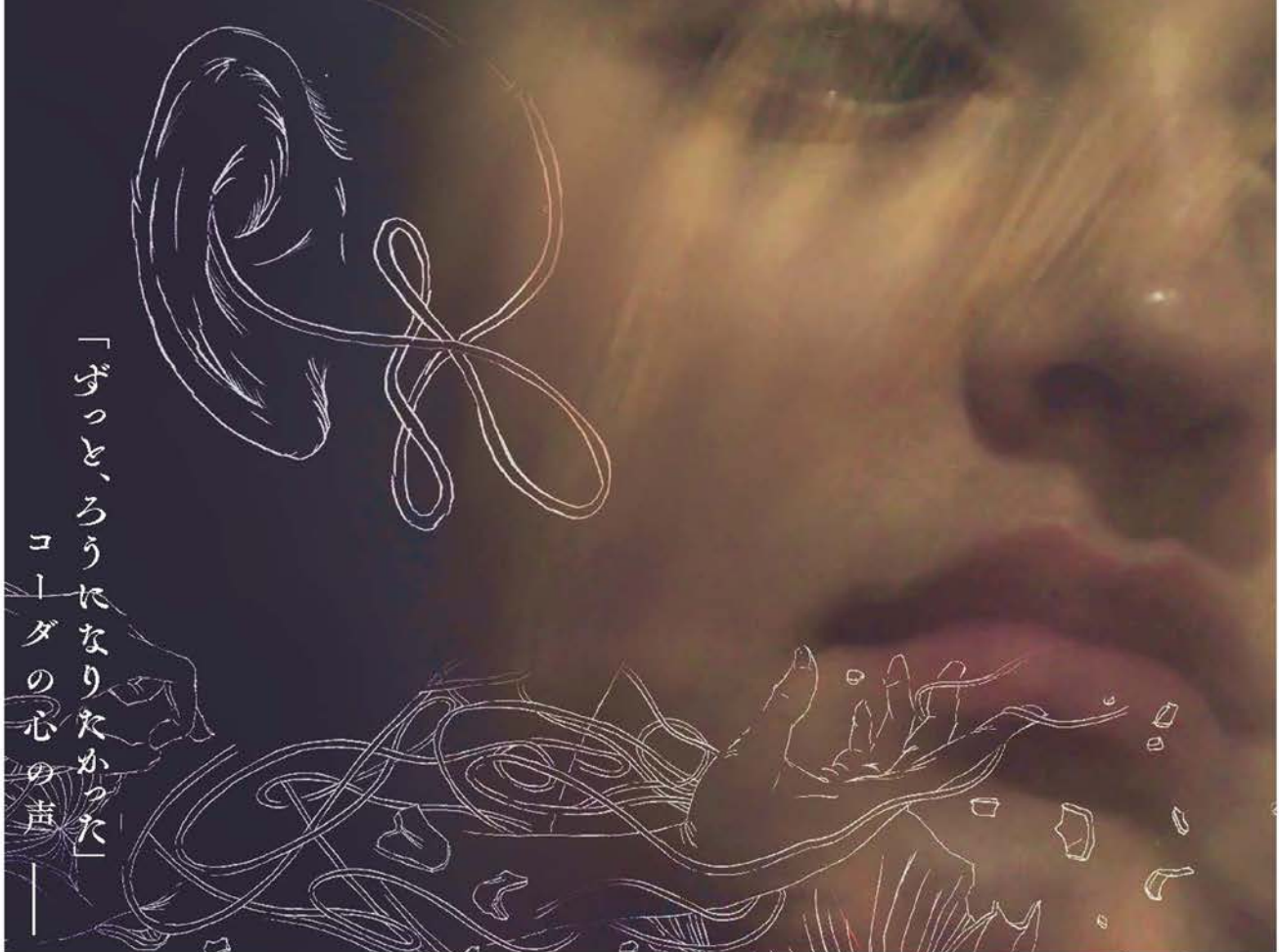


Only I can hear



「ずっと、ろうになりたかった
コーダの心の声」

私だけ聴こえる

監督 | 松井至

出演 | ASHLEY RYAN / NYLA ROBERTS / JESSICA WEIS / MJ / 那須英彰

製作 | テムジン / リトルネロフィルムズ

プロデューサー | 平野まゆ 音楽 | テニスコーツ 共同監督・撮影 | HEATH COZENS

編集 | HERBERT HUNGER 日本語字幕 | 安宅 典子

字幕制作 | パツ・パツ サウンドミキサー | 高梨智史

カラーグレーディング | 齋藤直彦 デザイン | サムワンスガーデン

協力 | TOKYODOCS / 文化庁 配給・宣伝 | 太秦 [2022] 日本 | カラー | DCP | 5.1ch | 76分 | ©Temjin



耳の聴こえない親を持つ、耳の聴こえる子どもたち

音のない世界と聴こえる世界のあいだで居場所を探すドキュメンタリー



123404

Only I can hear

「コードダとして葛藤してきたから、
これからは“他者の靴を履く”こと
ができるんだと思う」

映画の主人公、ナイラに最後にインタビューした時に彼女が繰り返したことわざはコードダに惹かれ、その世界に触れようとした私の試みでもあった。

自分の形を変えて“他者の靴を履き”、誰かになってみることに。その困難と必要をコードダたちから教わった。

映画の上映そのものが<他者と生きる自分>をとらえ直す時間になったらと願います。

— 松井 至

耳の聴こえないろうの両親から生まれた、耳の聴こえる子どもたち、コードダ(CODA: Children Of Deaf Adults)。家では手話で、外では口話で話す彼らは、学校に行けば“障害者の子”扱い、ろうからは「耳が聞こえるから」と距離を置かれる。コードダという言葉が生まれたアメリカでコードダ・コミュニティを取材した初めての長編ドキュメンタリーとなる本作は、15歳というアイデンティティ形成期の多感な時期を過ごすコードダの子どもたちの3年間を追う。聞こえる世界にもデフの世界にも居場所のない彼らは、一年に一度の“CODAサマーキャンプ”の時だけ、ありのままの自分を解放し無邪気な子供に戻る。

15歳。サマーキャンプは終わり、進路を決める大切な時期に入る。「私はろうになりたい」という深い欲望に突き動かされ、聴力に異変をきたすナイラ、自分を育ててくれ

たろうの母から離れて大学に行こうと葛藤するジュシカ、コードダである自分の人生を手話で物語ることで肯定し友達を作ろうとするMJ、さらに日本とアメリカを行き来し手話通訳士をするアシュリーが妊娠を機に「お腹の子がろうになるか聞こえる子になるか」という悩みを抱えながら出産に向かう――。

監督は“社会の周縁に生きる人々の知られざる物語”をテーマに映像作品を制作してきた松井至。本作は2016年TokyoDocsにて最優秀企画賞を受賞。その後取材を続け、2021年に北米最大のドキュメンタリー映画祭HotDocsに選出されるなど、現在世界各国で上映を行っている。音のない世界と聴こえる世界のあいだで居場所を失い、揺らぎながらも自らを語り、成長していく子どもたちの姿からコードダの知られざる物語を綴る。



『私だけ聴こえる』上映会 & 松井至監督トークショー

日時：2024年10月12日(土) 14時～16時(上映会80分、トークショー30分)

場所：宮城学院女子大学講義館C202

大学祭企画。事前申込不要、参加費無料、関心のある方は、どなたでも参加できます。

問合せ

宮城学院女子大学附属

人文社会科学研究所

TEL: 022-277-6210



MG『私だけ聴こえる』HP